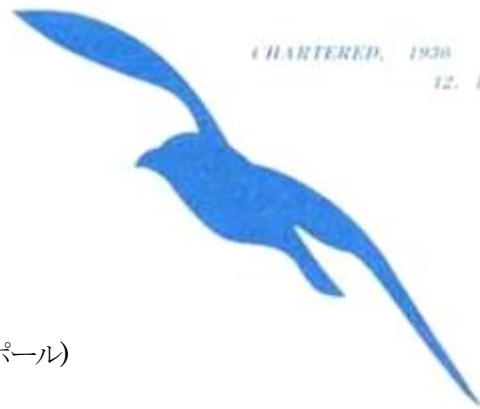




国際会長 (IP) Edward Ong (シンガポール)

“Faith, Love, Action” 「信念、愛、行動」

アジア太平洋地域会長 (AP) 田上 正 (熊本むさし)

“Act now with faith and love!”

「信念と愛を持って行動しよう！」

東日本区理事 (RD) 山下 真 (十勝)

「ワイズらしさの再発見」

“Rediscovering Y's Uniqueness”

かながわ部長 (DG) 兵藤 芳朗 (鎌倉)

「共に歩み 交流を深め 部の「絆」を強めよう」

横浜クラブ会長 (CP) 齋藤 宙也

「信念と愛をもって行動しよう！」

監事 松島 美一

ブリテン 秋元 美晴

担当主事 菅原 歩

会長 齋藤 宙也
副会長 古田 和彦
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古田 和彦

<今月の聖句>

松島 美一

平和を実現する人々は、幸いである。
その人たちは神の子と呼ばれる。

(マタイによる福音書 5章9節)

今月のひとこと

脳裏に残る B29 の爆音

大高 治

祈りの8月

例年8月は行事の多い月です。8月6日は広島平和記念式典、通称「広島原爆の日」、8月9日の長崎平和祈念式典と共に原爆犠牲者の霊を慰め、世界の恒久平和を祈念する日です。近年世界各国からの参加者が増えていますが、原子爆弾保有国からの参加者数について特別な報道は見当たり



ません。継続は力なり、何時の日か世界の行事になることを念じます。8月15日の終戦記念日（または終戦の日）には全国戦没者追悼式が日本武道館で開催され、黙祷が捧げられます。靖

国神社でも戦没者の霊を慰め、平和の祈りが捧げられたことでしょう。

選手宣誓と黙祷

甲子園では全国高等学校野球選手権大会の真只中、球場の選手も観客も黙祷を捧げます。またこの甲子園大会の初日の選手宣誓は、往年の「我々選手一同は、スポーツマンシップにのっとり正々堂々と闘うことを誓います」という紋切型から、宣誓のくじを引き当てた学校の選手たちが討議し熟慮して、地元が受けた災害の中でも野球が続けられてことに感謝し、「・・・若人の夢を燃やし、力強くたくましく、甲子園から大いなる未来へ向かって、正々堂々、闘い抜くことを誓います」と言うように、感謝と未来への夢を宣言しています。こうした宣誓の中で、十数年前「・・・好きな野球を存分に楽しめる平和日本を築いて下さった諸先輩に感謝したい」という宣誓はまだ脳裏から離れません。このような青年が成長していく限り、「明るく強い日本」が創られて行くに違いないと心強く思っています。

戦中戦後の記憶後から後から

今年の8月は戦後80年、昭和100年と言う節目にあたります。80年前の前後を振り返ると、戦争末期、戦後のことを思い出します。昭和15年生まれの子は日中戦争では既に戦中派、太平洋戦争では戦前派です。

- ・警戒警報、空襲警報で家の灯りを消し、防空壕に隠れると、B29を探す探照灯（サーチライト）が夜空を縦横に照らす
- ・黒煙を出して逃げるB29とそれに寄り添う友軍機
- ・2万人が訓練を受けている満蒙開拓青少年訓練所を爆撃するというビラ、布団を持ち出して道路の溝に隠れた我等
- ・東の空を真っ赤に染めた水戸の空襲
- ・その翌日随所に大きな穴があき、くすぶり続ける水戸の街、父の背で、母と共に病院探し

- ・水戸の東 5Km の勝田への艦砲射撃 (20Km 彼方の我家の雨戸を撃ち抜くような爆風、トイレには「這って行け」と命じる父の声)
- ・ゼロ戦とグラマンの空中戦 (不時着したゼロ戦、次第に飛び立たなくなっていく迎撃機)
- ・8 月 15 日の玉音放送 (近所の大人たちが庭に整列、それを縁側から眺めた私)
- ・16 日低空で飛ぶ米軍機に近所の兄さんたちに負けずに、「アメリカの馬鹿野郎」と叫び、腕を突き上げた
- ・特攻隊で戦死した近所の青年の葬儀 (我家の代表は 5 歳の私、前に倣い白木の箱を開けた)
- ・出征する兵隊さんの神社での壮行会 (父の挨拶と万歳三唱)、そして軍歌での見送り
- ・君が代、国旗掲揚、宮城遥拝が急になくなった朝礼
- ・天皇陛下の写真、教育勅語が納められ、登校下校時敬礼した奉安殿は取り壊されて滑り台に
- ・普通選挙 (女性の参政権) の開始
- ・プラカードを持って「人は右、車は左」と唱えながらの下校
- ・波打つ大きな缶からのオレンジジュース、脱脂粉乳を戻した牛乳の学校給食

思いを巡らしたら、これだけ出て来ました。通信簿は優良可。可にならないよう次に移ります。

神楽殿の遷座祭と爆音

横浜の総鎮守、伊勢山皇大神宮の崇敬会に入会しています。数年前、東日本大震災で壊れた神楽殿が室内に再建され、その遷座祭 (神を移す行事) が行われました。参列者は目を瞑って低頭している中、宮司さんが金色の鍵で正面の扉を開けます。すると「ごー」という音が頭上で鳴り響きました。「わー B29」と驚いて目を開けました。水戸は富山、八王子、長岡と同日の 8 月 2 日の夜に 160 機の B29 に襲われました。その時の爆音が 12km 先まで轟いたのであろうか。黒煙をはきながら我家の真上を B29 が飛んだのは 1 回だけ。そんなに B29 に怯えた記憶はありません。探照灯が右に左に夜空を照らして B29 を狙いますが、音はしません。だが、5 歳の子供の脳裏にはあの音が残っていたのです。

B29 の実物 YS11 より小！

それから 30 年、1975 年前後のことです。初代の社長と共に、オハイオ州のデイトンに出張しました。仕事が早く終り、勧められた航空機博物館に行ってみました。アメリカが誇るロケットの数々が屋外に展示され、室内には日本の誇るゼロ戦が、不時着機であろうか。アメリカの戦闘機グラマンの胴体にはゼロ戦を撃ち落した数を示す印を付けています。更に進むと何と B29 が展示されていました。どんなに巨大な爆撃機かと思って近づくと、何と YS11 (戦後初めての国産の旅客機) より小さく見えたのです。こんな飛行機に逃げまわり、全国の主要都市は焼き尽くされ、東京も火の海に、広島、長崎に原爆を投下したのは、この飛行機かと涙がこぼれそうになりました。もっと大きかったら思いは違ったでしょう。社長はと見ると B29 をじっと見つめて動きません。昭和 19 年、20 年は会社を起した頃、無い無い尽くしのなかでの起業、私たちには想像出来ない苦労があったことと思います。「社長、帰りましょう」と袖を引いて促したのでした。

冷房完備で悠々爆撃

ネットで調べると B29の方が若干大きいのです。全長、翼巾は B29 が勝り、高さは YS11 が上でした。高性能の世界最大の爆撃機 B29 は冷暖房完備、YS11 は世界最大の人力飛行機の由。日本の飛行機製造は 1945 年から 1952 年まで全面的に禁止されました。このブランクは大きく、未だに次の旅客機は出来ません。

この戦争は何としてでも日本に先に攻撃させたいフランクリン・ルーズベルト大統領 (32 代) の謀略は良く知られていますが、それより 44 年前、「日本を打ちのめすオレンジ計画」がスタートしていたのです。1994 年 6 月、米国の情報公開法により、そのことは公開されましたが、残念ながらその 1 年後の戦後 50 周年の村上談話には反映されていないというのです。私はこの本を読み始めたところです。今後どのような展開になるか、興味半分恐ろしさ半分です。



飛行するYS-11M 61-



飛行するB-29A-30-

<2025年9月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
11 名	メン 6 名 メネット 0 名 コメット 0 名 ビジター 0 名 ゲスト 2 名 合計 8 名	73% (メーキャップ 2 名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0 g 現金 0 円 年度累計 切手 0 g 現金 0 円

<9月の行事>

ASF

日	曜	時間	行 事 内 容	場所
2	火	19 : 00	第 107 回 Y-Ys 協議会	中央 Y
5-7	金日		YVLF	富士山 Y
11	木	18 : 30	横浜クラブ 9 月第一例会	中央 Y
23	火・休	10 : 00	YMCA フェスタ	とつか Y
27	土	11 : 30	横浜クラブ 9 月第二例会	Zoom

第一例会報告

古賀 健一郎

会場：横浜中央 YMCA 812 教室

出席者：秋元、大高、古賀、齋藤、菅原、古田

ゲスト：横浜 YMCA 専門学校校長 山下忠司さん、同校専任講師 安富由起子さん

例会は古賀ワイズの司会により定刻に開始。齋藤会長の開会点鐘と挨拶に続き、ワイズソング、ワイズの信条の唱和が行われた。ゲスト紹介の後、古田ワイズによる聖句朗読とお祈りがあった。

今回の例会では、7月18日に厚木市文化会館小ホールで開催された「第12回横浜 YMCA 専門学校日本語スピーチコンテスト」を振り返り、その意義や成果を共有するため、山下忠司校長と安富由起子講師をお招きし、評価会を行った。

【第12回横浜 YMCA 専門学校日本語スピーチコンテスト評価会 概要】

山下校長からは、対面での開催を継続する意義が語られた。オンライン実施よりも緊張感があり、参加者の表情や熱意が直接伝わる臨場感こそが学びの原点であるとの見解である。会場の雰囲気共有することで、発表者と聴衆の一体感が生まれ、スピーチの完成度も高まるという。

一方で、運営面の課題も率直に共有された。秋元審査委員からは、審査員同士が意見を交わす時間が確保できず、個人判断で結果をまとめざるを得なかった点が反省点として挙げられた。次回は審査員が別室で15分程度協議する時間を設け、複数の視点を反映した結果発表とすることが提案された。また、その協議中にはユースリーダーによる音楽演奏や前年度優勝者の短いスピーチなど、会場を和ませる工夫も検討された。

《主な論点》

① 質問の難易度と公平性

スピーチを暗記しても即興で質問に答える力は別であり、特に中級レベルの日本語学習者には難問が多かったという。国籍や言語的背景にも配慮し、次回は参加者の日本語能力に見合った質問設計が必要との意見が出された。

② 会場運営の改善

厚木会場は交通面で負担が大きく、移動時間が長引いたことから、次回はよりアクセスが良く収容力のある「横浜開港記念会館」などの地元会場が望ましいとされた。地元で300人規模を収容でき、マスコミ対応にも適している点が高く評価された。

③ 若い世代との連携強化

ユースリーダーズボランティアフォーラムでの成功例を踏まえ、スピーチコンテストにもユースリーダーの参加を呼びかけ、学生・留学生・ワイズ会員の交流を促進することが提案された。若者の参加により、イベントに新しい活力と多様な視点が生まれ、世代間の橋渡しにもつながると期待されている。

④ 財政面での課題

専門学校事業部の厳しい予算状況が報告された。持ち出しを避けるためにも、みなとみらい地区や海外拠点を持つ企業、卒業生の勤務先などに新たな協賛を依頼し、来年までに1社以上の新規支援を得る努力を続けたいとされた。スピーチコンテストの継続・発展には、教育的・社会的意義を広く発信し、支援の輪を広げることが必要との認識で一致した。

⑤ 今後の運営体制

今後はワイズメンバーが学生・教職員と協力しながら、企画・広報・運営を分担していく体制を整えることが提案された。今回の評価会を通して、参加者全員がスピーチコンテストの教育的価値を再確認し、YMCAの国際理解教育の推進という共通目標に向けて歩みを新たにしたい。

【秋元美晴ワイズの最新紹介】

例会の終わりには、今回ゲストとして出席された安富由起子先生をはじめ、横浜 YMCA 専門学校日本語学科の教職員の方々と、恵泉女学園大学名誉教授・秋元美晴ワイズとの共著による新刊『日本語の助詞とよくある表現』が紹介された。本書は、留学生をはじめ日本語を学ぶ海外の方々にとって大変有用な内容で、日本語の助詞やよく使われる表現、自然な言葉の組み合わせ（コロケーション）をわかりやすく解説している。2年の歳月をかけて完成した本書は、秋元ワイズの豊かな日本語教育の経験が生かされた意欲作であり、日本語学習に携わる多くの人々にとって貴重な一冊となっている。

その後はビジネスミーティングに移り、今後の予定等を確認。会長の閉会点鐘により、定刻どおりに終了した。



第107回Y-Ys協議会報告

齋藤 宙也

日時 2025年9月2日（火）19:00~20:30

会場 横浜中央YMCA 6階606号室

出席者 約20名 内横浜クラブ4名（古賀、佐竹、齋藤、古田）

今回は厚木クラブが当番、開会礼拝司会は加藤誠担当主事、その後の進行は佐藤厚木クラブ会長。

1. 開会礼拝 聖書 テサロニケの信徒への手紙 15章 16~18節 祈祷 加藤誠
2. 挨拶 横浜YMCA総主事 佐竹博
ワイズメンズクラブかながわ部部長 兵藤芳朗
3. 協議

（ア）第37回東日本ユースボランティアリーダーズフォー

ラム (YVLF)

宮澤仁スタッフから説明。準備は着々と進んでおり、カウンセラーリーダーのミーティングも行われているとのこと。横浜 YMCA からは、カウンセラーリーダー9名のほか、別途9名のリーダーが参加する予定である。

(イ) 第28回インターナショナルチャリティーラン

関口努スタッフから説明。今年度は、18件の障がい児プログラムに257万円余りを支援する予定である。コロナ禍をきっかけに始まったオンラインでのチャリティーランが続いているYMCAは横浜だけであり、鋭意参加チームを集めている。Tシャツの図案も決まっており、9月8日までに申込みしてほしい。

(ウ) YMCA フェスタ

つづきクラブの鈴木茂ワイズからチラシに沿って説明、のち古賀会員事業委員会委員長が補足。今年は、保育事業・アフタースクール事業の説明が中心となる。

4. 報告

(ア) 日本語スピーチコンテスト

横浜・厚木クラブ主催の下7月18日(金)に行われた。発表者合計10名、出席者200名弱で、大盛況であった

(イ) 第32回エイズ文化フォーラム

8/1-3(金-日) かながわ県民センターで実施。参加者は、例年とほぼ同じ2000名余り。大きなテーマは掲げず、みんなの本音が聞ける、語れることを中心にした。看護学校の学生が学習の一環として結構訪れる。また、若い運営ボランティアが多い。

(ウ) アジア太平洋地域ユース・コンボケーション

熊本で、7月30日から8月3日にかけて行われた。参加者は選抜制で、参加費(交通費以外)はワイズ等から補助が出る。

(エ) かながわ部納涼会

8月21日(木)に行われ、その様子が報告された。

(オ) 各クラブ報告(各クラブ会長)

横浜クラブからは、会長が初めて当協議会に参加したこと及び9/5~7のYVLFへの参加について説明を行った。

・次回 第108回Y-Y's 協議会

日時: 2025年12月2日(火) 19:00~20:30

会場: 未定 担当: 大和クリエイティブYサービスクラブ

『第37回ユースボランティア・リーダーズフォーラム報告』

古賀 健一郎

日程: 2025年9月5日(金)~7日(日)

会場: 富士山YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジ

テーマ: 「環境問題について」

参加者: ユース34名(北海道1、もりおか2、仙台2、とちぎ4、千葉2、ぐんま1、東京5、横浜8)

グループカウンセラー5名(横浜)、プログラムリーダー2名(横浜)、ワイズメンズクラブ東日本区関係者29名 YMCA 運営委員1名、ユース代表2名(川上灯・山口満穂)

1. フォーラムの概要

第37回ユースボランティア・リーダーズフォーラム (YVLF)

は、富士山の麓に位置する富士山YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジにて開催され、全国各地のYMCAで活動するユースリーダーと、ワイズメンズクラブ東日本区の会員、総勢約60名余りが参加した。

初日は台風5号の影響で大雨に見舞われたものの、翌日には晴れ上がり、雄大な富士山を仰ぐ中でユースとワイズが和やかに交流を深める恵みの3日間となった。夕食のテーブルでは、各地YMCAの特徴紹介や活動報告もあり、世代を超えた学びと交流が自然に生まれた。

2. 基調講演『「環境」の課題、私たちはどう向きあう?』

講師: 山崎 宏氏(NPO 法人ホールアース自然学校 代表理事)

山崎氏は、富士山の自然に囲まれて育ち、長年にわたり、環境教育に携わってきた立場から、「環境問題を“自分ごと”として捉える」ことの重要性を力強く訴えた。

講演では、環境問題に対する3つのアプローチとして

①ルール の 制定、②技術開発、③教育・心 の 問題が示され、特に③教育的アプローチの重要性が強調された。

環境問題は「ゆでガエル現象」のように、変化が緩やかなために人々が危機に気づきにくいこと、そして問題意識を持続する難しさが指摘された。

また、自然学校での体験教育「インタープリテーション」の意義が紹介され、目に見える自然現象を通して「見えない自然のメッセージ」を理解する力を育むことが環境教育の核であると語られた。

富士山の現状として以下の3つの課題が詳述された。

- ・永久凍土の融解: 地球温暖化による山体の浸食リスク
 - ・シカの過剰繁殖: 森林植生の破壊と生態系バランスの崩壊
 - ・オーバーツーリズム: 観光客の増加による環境負荷
- これらの問題を前にして、「このままでいいのか」という問いかけがなされた。山崎講師は「小さくても行動することの意味」を説き、山火事の中で一滴の水を運び続けたハチドリ の 寓話を紹介。他の動物たちが逃げる中で、小さな鳥が「自分にできることをやる」と言い続けた姿に、個人の小さな行動の力を重ね合わせた。「たとえ一滴でも、何もしないよりは、何かをすることから始まる」という言葉が多くの参加者の心に残った。

3. ワイズメンのプログラムと意見交換

ワイズメンに向けた特別講演とディスカッションが行われた。主な意見として次のような提案が出された。

- ・「W4W」活動でのゴミ拾いなど、環境プロジェクトにユースリーダーを巻き込み、東日本区全体で同時期に実施したい。
- ・各クラブの例会で環境問題をテーマとした卓話を企画し、ユースも招く場を作る。
- ・活動を一過性で終わらせず、年間を通じて「環境問題」を意識し続ける。
- ・横浜クラブの「美しい港町横濱を作る会」の清掃活動のように、地域企業・団体と行政と協働する地域活動を広げたい。
- ・ハチドリ の 寓話になぞらえ、「ワイズ・ハチドリ の ひ と し ず く 運 動」として環境行動を中長期目標に掲げ、ロゴやスローガンを募集して展開してはどうか。

4. ユースの学びと提言

ユースたちは山崎氏の講演をもとにグループごとにディスカ

ッションを行い、最終日に環境保全への提言を発表した。

「環境問題を知るだけでなく、行動に移す勇気を持ちたい」「小さな一歩を地域で実践したい」という前向きな意見が多く聞かれた。

今年のフォーラムは、故・城田教寛氏（前回実行委員長）への追悼の時を持ちながら、その志を継ぎ、若者とワイズがともに未来を考える意義深い集まりとなった。

5. 今後への課題と展望

- YVLF の募集が、学Y（大学YMCA）や環境問題に関心のある若者層に十分届いていない可能性がある。
- 参加費 15,000 円は、個人負担には高く、経済的支援の仕組みを検討すべき。「ワイズの宝物はユースリーダー世代である」という認識を全クラブで共有し、ユースの育成と支援をさらに推進したい。

6. まとめ

今回のフォーラムは、富士山の自然環境を舞台に、若者とワイズが共に「行動する心」を新たに集いであった。

環境問題は決して他人事ではなく、「小さな一滴がやがて大きな流れになる」ことを信じて、それぞれの地域での実践へとつなげていきたい。

「ハチドリの一滴」——それは、私たち一人ひとりの祈りと行動の象徴である。

フォーラムでは、ユースとワイズの全員で「わたしのこどもたちへ」を歌い、世代を超えて心をひとつにしました。鳥が空を舞い、魚が川を泳ぎ、子どもたちが大地を駆ける——その光景を未来に残すことこそ、私たちに託された使命です。ハチドリの一滴とこの歌の願いを胸に、これからも希望の灯を絶やさず歩んでいきたいと思います。

（ご参考： [「わたしのこどもたちへ」KKBOX 掲載ページ](#)）



横浜 YMCA フェスター私たち会員の集いー報告

古田 和彦

○日 時 2025 年 9 月 23 日（月・休）10：00～14：30

○会 場 湘南とつかYMCA A1 階ホール他

○出席者 約 150 名 内横浜クラブ 5 名（秋元、古賀、佐竹、菅原、古田）

1. 開会礼拝 聖 書 テサロニケの信徒への手紙Ⅱ 2 章
17 節 祈 祷 鈴木茂会員事業委員

2. 挨拶 会員事業委員長 古賀健一郎（横浜クラブ）

3. 内 容

1) 10：20-11：00 知りたい！あなたの知らない保育園・アフタースクール

横浜 YMCA には 14 園があり、1119 名の子供たちが通っている。職員が 408 名、ボランティアが 308 名で、「キリスト教保育」を掲げて運営している。アフタースクールは、8 施設と 2 つの学校、4 拠点合わせて 14 か所で、1657 名の子供たちを 224 名のスタッフでお世話をしている。自分のいのちとみんなのいのちを大切にすること、世界と地球を見つめ、考え、行動することを大切にしている。

2) 11：00-11：30 繋がりたい！世界の仲間

台湾 台北 YMCA 会場ととつかYMCA をオンラインでつなぎ、まずは、中国語であいさつ。「コンシー、パースウーネン」、「台北 YMCA80 周年おめでとう」との意である。台北 YMCA とは、1992 年からスタッフ派遣をして交流を続けている。オンラインで、台北 YMCA の行っている事業（ホテル含む）、国際交流活動が紹介され、私たちの学びを深めることとなった。

3) 11：40-12：50 ワクワク体験会

健康教育事業の歩行チェック、2 階教室では、語学、専門学校、アフタースクール、オルタナティブ、保育、地域福祉、国際、子育て支援、ワイズのブースが設けられ、それぞれ体験できた。ワイズでは、絵本の読み聞かせ活動を行った。

（ア）11：50-12：50 YMCA マルシェ

ウクライナ物産、パヤオグッズ、能登半島物産、チャリティーランTシャツが展示販売され、また、お弁当、おにぎり、アンジュのパン、ウクライナ菓子、韓国のスイーツとドリンクが販売され、私たちワイズの仲間はそれぞれの食べ物を買い、懇談しながら昼食をとった。

（イ）13：00-13：30 YMCA キャンプリーダーと歌う会

キャンプリーダーの指導で、キャンプソングを歌う。

「ロック マイ ハート」を、身振りを交えて歌った。

（ウ）13：40-14：10 ビンゴ大会

賞品が用意され、特別賞は富士山 YMCA の宿泊券であった。最後の人にも賞品が手渡され、数字の発表に一喜一憂した。

（エ）閉会礼拝

佐竹総主事の閉会の挨拶、「横浜 YMCAー私たちの使命ー」を全員で交読して閉会した。

参加した感想ですが、今年は 4 回目とのことで、内容も充実していた。特に、3)の体験会、国際事業のブースでは「広島

ピースセミナー」の報告を青年、光州 YMCA からの研修生、ウクライナからの避難者を含めて行われ、平和の大切さを考えあうことができたこと、ワイズの絵本の読み聞かせに子供たちもたくさん参加してくれたことなど、学びと交わりの良い機会であり感謝です。

近 況

公園の散歩から思う

古田 和彦



毎日働く生活を卒業して15年ほどになる。そのころから、朝、妻と一緒に公園でラジオ体操をしている。ラジオを持っていくことも私の大きな仕事である。公園の中を15分ほど散歩して体操の場所に到着する。いつも、ラジオ体操の仲間だけでなく、犬の散歩、ランニングの人など、毎日となると見慣れた方々とは気持ちよく挨拶を交わしている。体操を終えた帰りに、いつも会う人にNさんがいる。Nさんは、乳母車を押し、手にトングを持ち、ビニー袋を乳母車に下げている。毎日、公園のごみを拾っているのだ。会うたびに、今日の成果を見せてくれる。ペットボトル、お菓子の袋、空き缶、花火の燃えカスなどだが、時々10円とか5円を拾う時もある。公園を散歩している私たちは、Nさんからごみのポイ捨てをしてはいけないこと、ごみの分別をきちんとしなければいけないことを、身をもって教えられている。

この夏も暑かった。地球温暖化の進行は識者の予想より早く進んでいるようだ。私たち人類の消費性向がその最大の原因ではないだろうか。責任を他者に問うことはやさしいが、自分事として小さな一歩を踏み出すことも大切である。横浜中央YMCAのある横浜市中区近辺では、「美しい港横濱を作る会」が結成され、年2回、YMCA初め、地域の企業の皆さんが参加してゴミ拾いを行っている。

ワイズメンズクラブも国際協会によって2020/21年度に開始されたW4W(Week for Waste、ごみのための週)が制定された。よりクリーンな地球を目指し統一的に行動するCS事業のキャンペーンである。ワイズメンの一人である私たちは、上記の地域活動に参加するとともに、単にその時にゴミを拾うだけでなく、日頃の生活において、ごみの分別、ごみの減少に留意していきたいものである。私も朝のラジオ体操にもう一つ、トングとビニール袋を持参するようにしよう。

第二例会報告

古田 和彦

日時：9月27日(土) 11:35~12:05

場所：Zoomによる開催

出席者：大高、齋藤、菅原、古田

協議・確認・検討事項

1. 行事予定

資料に示された予定に次が追加された。

- ・11月1日(土) 13:30~17:00 中央Yフェスタ バザ

一準備会

- ・1月17日(土) 11:30~12:15 横浜クラブ1月第二例会 Zoom

2. 協議・報告事項

(1) 例会計画

- ・10月 10/9(木) 17:30開始 於 中央Y
日本語スピーチコンテスト参加の留学生との懇談、山下校長に依頼済み。参加留学生が決定したら改めて通知する。
- ・11月 11/13(木) 18:30 於 中央Y
卓話を予定。美しい港町横濱を作る会会長→佐竹総主事に依頼中。
- ・12月 12/11(木) 中央Y各部訪問
- ・1月 1/17(土) YMCA・ワイズ合同新年会(第一例会)
- (2) 「美しい港町横濱を作る会」清掃活動 8:30 桜木町日本丸パーク集合 当クラブ参加者：秋元、古賀、齋藤、佐竹、古田
- (3) チャリティーラン 10/18(土) 8:00 臨港パーク 当クラブ参加者：大高、古賀、齋藤、佐竹、古田
- (4) ブリテ10月号編集計画は、別紙予定通り進めることとした。
- (5) ワイズスプーンの購入を予定したが製造業者が倒産して在庫なし。ほかの適当なものがあるか、スプーンの単価はいくらか問い合わせる→担当古田



担当主事 菅原 歩

9月下旬よりやっと秋らしい気温になり、子どもたちも元気に外で遊べるようになりました。

夏が長く、秋が短い1年になりそうですが、スポーツの秋、食欲の秋、芸術の秋、様々な秋があります。

子どもたちには外に出て、自然に触れて、画面越しだけではない本物体験の機会を多く持ってもらいたいです。

9月5~7日 東日本ユースリーダーズフォーラム(YVLF)

9月23日 横浜 YMCA フェスタ

10月例会プログラム

日時：10月9日（木）17：30～19：00

場所：中央YMCA・オンライン

司会：齋藤ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶・・・・・・・・齋藤会長
2. ワイズソング・ワイズの信条・・・・全員
3. 今月の聖句・・・・・・・・松島ワイズ
4. ゲスト・ビジター紹介・・・・・・・・齋藤会長
5. 日本語スピーチコンテスト参加の学生たちとの交流
・・カルタナク スワシニさん（インド・女性）
ミヤ ティダーさん（ミャンマー・女性）
6. ビジネス・報告・・・・・・・・齋藤会長
7. *Happy Birthday*
8. 閉会点鐘・・・・・・・・齋藤会長

例会報告 齋藤ワイズ

10月の行事予定

日	曜	時間	行 事 内 容	場 所
9	木	17:30	横浜クラブ10月第一例会	中央Y
11	土	8:30	美しい港町横浜をつくる会 清掃活動	日本丸メモリアルパーク集合
18	土	8:00	チャリティーラン	臨港パーク
23	木	17:00	横浜クラブ9月第二例会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 菅原歩にご連絡下さい。

メール sugahara_ayumu@yokohamaymca.org

電話 045-307-7556